

千葉県福祉サービス第三者評価の評価結果 (保育所等)

1 評価機関

名 称	株式会社プレパレーション		
所 在 地	千葉県千葉市中央区富士見2-7-9		
評価実施期間	2023年 7月 1日～	2023年 12月 1日	

2 受審事業者情報

(1) 基本情報

名 称 (フリガナ)	千葉稲毛雲母保育園 チバイナグキララホイクエン		
所 在 地	〒263-0031 千葉県千葉市稲毛区稲毛東5-15-5		
交通手段	JR総武線 稲毛駅 徒歩9分		
電 話	043-204-7030	F A X	043-204-7031
ホームページ	https://www.kirara-hoikuen.com/about/hoikuen/inage/		
経 営 法 人	株式会社モード・プランニング・ジャパン		
開設年月日	2018/4/1		
併設しているサービス			

(2) サービス内容

対象地域										
定 員	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計			
	6	10	10	11	11	11	59			
敷地面積	1022.28㎡			保育面積			187.06㎡			
保育内容	0歳児保育 ○		障害児保育 ○		延長保育 ○		夜間保育			
	休日保育		病後児保育		一時保育 ○		子育て支援			
健康管理	-									
食 事	昼食・おやつ・夕食・補食									
利用時間	7:00~20:00									
休 日	日曜日・祝日・年末年始									
地域との交流	あり									
保護者会活動	なし									

(3) 職員（スタッフ）体制

職 員	常勤職員	非常勤、その他	合 計	備 考
	17	0	17	
専門職員数	保育士(幼稚園教諭含む)	看護師	栄養士	
	15	0	2	栄養士1名保育士資格保有、 栄養士1名管理栄養士資格保有
	保健師	調理師	その他専門職員	
	0	0	0	

(4) サービス利用のための情報

利用申込方法	千葉県 こども未来局 幼児教育・保育部 幼保運営課	
申請窓口開設時間	8:30~17:30	
申請時注意事項	市への申し込みの前に園見学にお越しください。 休園日：日曜祝日・12月29日から1月3日	
サービス決定までの時間	市の利用選考による。	
入所相談	市の窓口へお問い合わせください。利用案内は園で随時相談受付中。	
利用代金	市の定めによる	
食事代金	3歳児以上 主食費 2,000円/月、副食費 4,500円	
苦情対応	窓口設置	○
	第三者委員の設置	○

3 事業者から利用（希望）者の皆様へ

<p>サービス方針 (理念・基本方針)</p>	<p>子どもたちは遊びの中で試したり、考えたり、工夫したり様々な経験をしながら気づき、見つけ、できることが増えていきます。そんな第一歩を踏み出す子どもたちをあたたかく見守りながら、一人ひとりの気持ちに寄り添い、共に喜び一緒に挑戦していきたいと思ひます。そしてたくさんの人との出会いや関わりを大切にしつつ、思いやりや優しい気持ちを育てていきたいと思ひます。</p>
<p>特 徴</p>	<p>1、健康な心と身体を育む 雲母保育園では以下の保育方針を定めて園運営をしております。 「健康な心と身体を育む」 具体的には、子どもの最善の利益のを追求し、将来の自己実現へ向けた基礎を培う。家庭及び地域との信頼関係を築きながら、保護者が自ら子育てをする力を発揮できるように支援するという姿勢を全体的な計画に定めています。</p> <p>保育目標として以下の子ども像を掲げています。 「自らの心と身体を健康に大切にできる子ども」 「まわりの人々の思いに気づき、社会の一員としての生活を目指せる子ども」 「自ら考えたことを表現し、様々な人と親しみをもって関わり合おうとする子ども」 「主体的な意思に基づいて行動し、探究心をもって考えられる子ども」</p> <p>2、食育 「食との出会いから心身ともに健康で豊かな人を育てる」をスローガンに食育に取り組んでいます。 管理栄養士・栄養士を2名以上配置し、毎月テーマを決めて展開されるサイクルメニューではない園独自献立、毎日園で調理される給食、きめ細やかな離乳食対応などで安心安全だけでなく楽しみになるような給食の提供を行っています。 日々の保育の中でも栽培活動やクッキング保育、「先生」のひとりである管理栄養士・栄養士との関りが子どもたちの食への関心を培う機会となっています。 毎月の給食だよりでの情報提供や、年に2回姉妹園と合同での食の祭典「給食フェア」は子ども達だけでなく保護者の皆さまからも好評いただいています。</p> <p>3、きらら教室 きらら教室では、パズルやぬりえから言語やさんすうまで、様々なプログラムを通して生活に必要な能力を身につける活動を行います。 言語やさんすうと言ってもむずかしいことを勉強するというものではありません。丸暗記や機械的な学習ではなく、工夫や発見・感じたことを言葉や形にすることで考える力を養います。 保育士とじっくり向き合い、一人ひとりの成長を見守り援助します。楽しみながら集中して考えるため、基礎力・理解力・学習に対する意欲が育ちます。</p>

<p style="text-align: center;">特 徴</p>	<p>4、保護者の方々との連携 雲母保育園では園と保護者の方々とのコミュニケーション・信頼関係構築を大切に考えております。毎日お迎えの際に5分間お時間を頂戴し、職員とじっくりお話をさせて頂くことをお願いしております。また年2回以上の個人面談、年3回の保護者会や行事、毎日の連絡ノート・栄養ノートを通し連携を密にとっていきたいと考えております。また、園で行う様々な行事には保護者の方々のご協力が必要です。</p>
	<p>5、安全管理 安全計画の策定、定期的な防犯防災訓練の実施、危険箇所をピックアップしたお散歩マップの作成など、日ごろより安全面に関しては細心の注意を払っておりますが、当園では万一の時に備えてセコムセキュリティシステムを導入しております。職員不在時の園内への不審者侵入時や職員による非常ボタンでの要請により、すぐさま警備員が駆けつけるようになっております。 カメラ付インターホンの設置、職員は生体認証での入退出管理を行うなど、徹底した安全対策を実施しており、安心してご利用いただけます。</p>
	<p>6、アレルギーへの対応 食物アレルギーに関しては対応マニュアルを整備しており、医師の指示に基づいてアレルギー除去の給食の提供や、アレルギーへの接触に配慮した環境整備を行います。専門知識をもった管理栄養士・栄養士がご相談も承ります。 園内環境としても日頃より清潔を保ちアレルギーの除去につとめております。毎日の清掃はもちろんのこと、おもちゃは毎日洗浄し、消毒を行っております。シックハウス症候群などの原因となる化学物質（※）は一切使用しておりませんのでご安心下さい。（※ホルムアルデヒド・アセトアルデヒド・トルエン・キシレン・スチレン等）</p>
<p style="text-align: center;">利用（希望）者 へのPR</p>	<p>千葉稲毛雲母保育園は閑静な住宅街にある保育園です。近くには安産祈願などで知られている、稲毛浅間神社があり、子どもたちはその広場で思いきり走ったり、どんぐりを拾ったり季節を感じながら戸外活動をしています。子どもたちが自ら考え、主体性をもって行動するためには言葉だけではなく、身体を使ってやってみる、感じてみる体験が大切だと考えます。 そのために、子どもたちの様子を見ながら常にやってみたいを見逃さずにチャレンジできる環境作りに力を入れ、できた時の喜びに共感しています。 「できたね」がどんどん増えて一人ひとりの自信へと変わっていく時、子どもたちは素敵な笑顔を見せてくれます。 チャレンジしたことがうまくいかず、悔しさや悲しい思いで涙がこぼれることもたくさんあります。このチャレンジのプロセスを認めて「また今度やってみようね」といった言葉で励まし、ゆったりと構えて見守り、子どもたちと一緒に歩いていくことを大切にしていきたいと考えています。</p>

福祉サービス第三者評価総合コメント

特に力を入れて取り組んでいること
やってみたい、やってみよう、やってみるの気持ちを大切に、子どもたちが自ら考え、主体性をもって行動できる環境づくりに努めています。
園では子どもの「やってみたい」「やってみよう」「やってみる」の実現に向けて、言葉だけでなく、体を使ってやってみる、感じてみる体験が大切であると考えています。そのために、子どもたちの様子を見ながら常に「やってみたい」の興味や意欲を見逃さず、「やってみよう」の気持ちを大切に、挑戦できる環境づくりに力を入れています。「やりたい」と言えない子の発信も見逃さないように一人ひとりをよく見ており、その子なりの「やりたい」「できたね」を探して拾い上げ、子どもの自信や意欲につながるようにしています。子どもの姿をゆったりと見守り、子どもと喜び合い、子どもと一緒に歩んでいくことを大切にしています。
保護者とのコミュニケーションを大切に、丁寧な対応、保護者の気持ちに寄り添った対応を心がけています。
園では保護者とのコミュニケーション・信頼関係の構築を大切に、毎日の迎え時に保育士・栄養士がその日の子どもの様子を伝える「5分間対応」に取り組んでいます。担任に限らずどの職員も保護者対応を行えるように、職員間での情報共有に努め、一日の様子に個々のエピソードを交えながら話をするようにしています。5分という限られた時間の中でも丁寧な対応をしていくことを大切に、労いの言葉かけ、話しやすい雰囲気づくりに努めています。また、話すことが苦手な保護者には配慮した声のかけ方をするようにし、保護者にとって「5分間対応」が良いものとなるように心がけています。
毎日美味しい・楽しい食事を提供し、食に関するさまざまな経験を通じて、健康で豊かな人を育てる食育に努めています。
食育スローガン「食と出会いから心身ともに健康で豊かな人を育てる」を基に、食育活動を通じて様々な味と出会い、作り手との関わりを持つように努めています。2名以上の管理栄養士・栄養士が、実際に見て購入をした食材で調理し、毎日内容の異なる献立を園独自に作成し、子どもたちが楽しみにする給食を提供しています。野菜を栽培するプランターにイラストで札を立て、子ども達が生きたグループの名前や約束・お願いを掲示するなど、園全体で大切に野菜を育てるようにしています。毎年地方の農家から送られてくる採れたての野菜や果物を子どもたちが皮むき・制作・食べている様子をドキュメンテーションにしてお礼の気持ちを伝え、交流を図っています。年間行事計画表にクッキングの予定を掲載しており、毎月の給食だよりを通じて食育活動の様子や季節、行事にちなんだ料理やおやつレシピを紹介し、保護者にも子どもたちの食事に関心を持ってもらえるようにしています。年に2回姉妹園と合同での食の祭典「給食フェア」は子ども達だけでなく保護者からも好評を得ています。
2歳児以上の子どもを対象に、幼児教室である「きらら教室」を実施し、生活に必要な基本的な能力を身につけられるようにしています。
雲母保育園では、様々なプログラムを通して生活に必要な能力を身につける活動に取り組んでいます。パズル・ぬりえ・言語・さんすうと年齢に応じたワーク等を活用し、楽しみながら学べるようにしています。工夫や発見・感じたことを言葉や形にすることで考える力を養い、線を鉛筆でなぞる動きがスプーンや箸を上手に持てることにつながり、質問に答えるというやりとりが人の話を聞き理解する力につながっています。保育士とじっくり向き合い、一人ひとりの成長を見守りながら、基礎力・理解力・学習に対する意欲が育まれるように援助しています。

共通の意識をもったメンバーでサービスを提供する組織作りに努めています。

開園から5年が経ち、園長や主任が中心となり共通の意識をもったメンバーでサービスを提供する組織が着実にできてきています。子どもたちが自主性をもって行動できることを大切に考える方針を共有し、少しでも気になったことは積極的に話題にあげて職員間で話をする習慣が根づいています。

さらに取り組みが望まれるところ

コロナ禍で見合わせていたさまざまな地域交流や多世代との交流を拡大・拡充していくことに期待します。

2018年に開園し、保護者や地域の人とさまざまな交流を拓けていく予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、地域交流が難しい状況でした。その中でも近隣にある高齢者施設との交流を継続し、敬老の日の贈り物を施設の職員を通して届けたり、ハロウインのイベントで仮装をした姿をテラス越しに披露したり、できる形で交流をしています。子どもたちとの関わりは高齢者の方の楽しみとなり、自分たちが仮装をして園児を迎えるなど、地域に根付いた交流となっています。今後は見合わせていた演奏会の再開、多世代交流、地域資源の活用が拡大・拡充していくことに期待します。

園のさまざまな活動を通して、試したり、考えたり、工夫したりする経験が増え、さらに子どもの育ちや成長につながっていくことに期待します。

コロナ禍の影響で、行事の縮小、園活動への保護者参加の制限をはじめ、子どもたちがさまざまな経験をする機会を持つことが難しい3年間でした。子どもがお祭り、花火など季節の風物詩にふれる経験が出来なかったり、保育士が行事を通して見られる子どもの育ちを見る機会が少なかったりと、保育上でもさまざまな影響がありました。保育参観や保育参加の再開、地域交流の拡大、行事の再開と見直しの中で、何がどのように成長や育ちにつながっていくのかを考え、子どもも保育士もさまざまな経験をしながら、気づきや発見、できることが増えていくことに期待します。

導入したシステムや仕組みを活用して、より一層業務の効率化に期待します。

近年の情報化社会に対応し、業務の効率化や様式の統一、情報管理の作業軽減などを目的としてセキュリティにも配慮した上で業務関係のシステムを導入しています。導入してからの期間がまだ長くないためシステムの活用方法や仕組みを周知徹底して、記録の正確性を高めると共に業務の効率化を期待します。

(評価を受けて、受審事業者の取り組み)

開園して6年目にして初めての評価でしたが、園運営を客観的に見つめるいい機会となりました。ありがとうございました。

今後の取り組みとしては保育の質の向上はもちろんのこと、保護者の皆さまとのコミュニケーションの充実、地域社会との交流の輪を広げられるよう取り組みを考え、さらに地域に根差した保育園を目指していきたいと考えています。

福祉サービス第三者評価項目（保育所等）の評価結果

大項目	中項目	小項目	項目	標準項目			
				■実施数	□未実施数		
I	福祉サービスの基本方針と組織運営	1 理念・基本方針	理念・基本方針の確立	1 理念や基本方針が明文化されている。	3		
			理念・基本方針の周知	2 理念や基本方針が職員に周知・理解されている。	3		
				3 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	3		
		2 計画の策定	事業計画と重要課題の明確化 計画の適正な策定	4 事業計画が適切に策定され、計画達成のため組織的に取り組んでいる。	4	6	
				5 施設の事業計画等、重要な課題や方針を決定するに当たっては、職員と幹部職員とが話し合う仕組みがある。	5	3	
		3 管理者の責任とリーダーシップ	管理者のリーダーシップ	6 理念の実現や質の向上、職員の働き甲斐等に取り組み指導力を発揮している。	6	5	
		4 人材の確保・養成	人事管理体制の整備	7 全職員が遵守すべき法令や倫理を明示し周知している。	7	3	
				8 人事方針を策定し、人事を計画的・組織的に行い、職員評価が客観的な基準に基づいて行われている。	8	4	
			職員の就業への配慮	9 事業所の就業関係の改善課題について、職員（委託業者を含む）などの現場の意見を幹部職員が把握し改善している。また、福利厚生に積極的に取り組んでいる。	9	5	
			職員の質の向上への体制整備	10 職員の教育・研修に関する基本方針が明示され、研修計画を立て人材育成に取り組んでいる。	10	5	
II	適切な福祉サービスの実施	1 利用者本位の保育	利用者尊重の明示	11 施設の全職員を対象とした権利擁護に関する研修を行い、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している。	11	4	
				12 個人情報保護に関する規定を公表し徹底を図っている。	12	4	
			利用者満足度の向上	13 利用者満足度の向上を意図した仕組みを整備し、取り組んでいる。	13	4	
			利用者意見の表明	14 苦情又は意見を受け付ける仕組みがある。	14	4	
		2 教育及び保育の質の確保	教育及び保育の質の向上への取り組み 提供する保育の標準化	15 教育及び保育内容について、自己評価を行い課題発見し改善に努め、教育及び保育の質の向上に努めている。	15	3	
				16 提供する教育及び保育の標準的実施方法のマニュアル等を作成し、また日常の改善を踏まえてマニュアルの見直しを行っている。	16	4	
		3 教育及び保育の開始・継続	教育及び保育の適切な開始	17 保育所等利用に関する問合せや見学に対応している。	17	2	
				18 教育及び保育の開始に当たり、教育及び保育方針や内容を利用者に説明し、同意を得ている。	18	4	
		4 子どもの発達支援	教育及び保育の計画及び評価 子どもの健康支援 食育の推進	19 保育所等の理念や保育方針・目標に基づき全体的な計画が適切に編成されている。	19	4	
				20 全体的な計画に基づき具体的な指導計画が適切に設定され、実践を振り返り改善に努めている。	20	5	
				21 子どもが主体的に活動できる環境が整備されている。	21	6	
				22 身近な自然や地域社会と関われるような取組みがなされている。	22	4	
				23 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。	23	6	
				24 特別な配慮を必要とする子どもの教育及び保育が適切に行われている。	24	6	
				25 在園時間の異なる子どもに対して配慮がなされている。	25	4	
				26 家庭及び関係機関との連携が十分図られている。	26	3	
				27 子どもの健康状態、発育、発達状態が適切に把握し、健康増進に努めている。	27	4	
				28 感染症、疾病等の対応は適切に行われている。	28	3	
		5 安全管理	環境と衛生 事故対策 災害対策	29 食育の推進に努めている。	29	5	
30 環境及び衛生管理は適切に行われている。	30			3			
31 事故発生時及び事故防止対策は適切に行われている。	31			4			
6 地域	地域子育て支援	32 地震・津波・火災等非常災害発生時の対策は適切に行われている。	32	5			
		33 地域ニーズを把握し、地域における子育て支援をしている。	33	5			
計				136			

保育所等 項目別評価コメント

(利用者は子ども・保護者と読み替えて下さい)

標準項目 整備や実行が記録等で確認できる。 確認できない。

	評価項目	標準項目
1	理念や基本方針が明文化されている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理念・基本方針が法人・保育所等の内部文書や広告媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。 ■ 理念・基本方針から、法人、保育所等が実施する教育及び保育の内容や法人、保育所等の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 ■ 理念・基本方針には、児童福祉法や保育所保育指針の保育所等・教育及び保育に関する基本原則が盛り込まれている。
<p>(評価コメント)</p> <p>入園案内、会社パンフレットやホームページにて理念・基本方針を明示しています。園内においても保護者や職員がよく目にする玄関や保育室、職員室に理念・基本方針を掲示しています。</p>		
2	理念や基本方針が職員に周知・理解されている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理念・方針を事業所内の誰もが見やすい箇所に掲示し、職員配布文書に記載している。 ■ 理念・方針を会議や研修において取り上げ職員と話し合い共有化を図っている。 ■ 理念・方針の実践を日常の会議等で話し合い実行面の反省をしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>玄関や保育室、職員室に理念・基本方針を掲示し、入職時や園内研修で施設長から職員へ向けて伝えています。</p>		
3	理念や基本方針が利用者等に周知されている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 契約時等に理念・方針が理解しやすい資料を作成し、分かりやすい説明をしている。 ■ 理念・方針を保護者に実践面について説明し、話し合いをしている。 ■ 理念・方針の実践面を広報誌や手紙、日常会話などで日常的に伝えている。
<p>(評価コメント)</p> <p>保護者に向けて入園前の園見学の際にパンフレットに沿って理念・基本方針を説明している他、保護者会や園だよりを使用して説明しています。また、園のHPでは入園案内に加えて施設長インタビューを掲載して、園独自の大切にしていることを伝えています。</p>		
4	事業計画が適切に策定され、計画達成のため組織的に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中・長期事業計画を踏まえて策定された事業計画が作成されている。 ■ 事業計画が具体的に設定され実施状況の評価が行える配慮がなされている。 ■ 理念・基本方針により重要課題が明確にされている。 ■ 事業環境の分析から重要課題が明確にされている。 ■ 現状の反省から重要課題が明確にされている。 ■ 運営の透明性の確保に取り組んでいる。
<p>(評価コメント)</p> <p>中長期計画を策定し、中長期計画に基づいて単年度計画に落とし込みをおこなった上で、行動計画を策定しています。年2回の自己評価チェックや年度末に向けての意向調査で施設長が全職員と面談をしています。</p>		
5	事業計画等、重要な課題や方針を決定するに当たっては、職員と幹部職員とが話し合う仕組みがある。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各計画の策定に当たっては、現場の状況を把握し、職員等の参画や意見の集約・反映のもとに策定されている。 ■ 方針や計画、課題は会議や研修会等にて説明し、全職員に周知されている。 ■ 年度終了時はもとより、年度途中にあっても、あらかじめ定められた時期、手順に基づいて事業計画の実施状況の把握、評価を行っている。
<p>(評価コメント)</p> <p>本社職員や施設長が職員と適宜面談をおこない、状況の把握や情報の収集をしています。近隣の姉妹園を指導するリーダー施設長や本部職員が園巡回で職員面談や指導をおこない、そのなかで得た課題などをリーダー施設長と本部職員の会議で取り上げ、重要方針の検討、決定をおこない、近隣姉妹園施設長との会議で共有して各園の計画などへ反映をさせています。</p>		
6	理念の実現や質の向上、職員の働き甲斐等に取り組み指導力を発揮している。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理念・方針の実践面の確認等を行い、課題を把握し、改善のための具体的な方針を明示して指導力を発揮している。 ■ 職員の意見を尊重し、自主的な創意・工夫が生まれやすい職場づくりをしている。 ■ 研修等により知識・技術の向上を図り、職員の意欲や自信を育てている。 ■ 職場の人間関係が良好か把握し、必要に応じて助言・教育を行っている。 ■ 評価が公平に出来るように工夫をしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>年2回の自己評価チェックや年度末に向けての意向調査で年3回施設長が全職員の面談をして、職員からの意見を収集し相談に乗っています。状況に応じて本部職員やリーダー施設長が職員面談をおこない、施設長とリーダー施設長、本部職員で職員の勤務環境改善などを検討しています。</p>		

7	全職員が遵守すべき法令や倫理を明示し周知している。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 遵守すべき法令や倫理を文書化し、職員に配布されている。 ■ 全職員を対象とした、法令遵守と倫理に関する研修を実施し、周知を図っている。 ■ プライバシー保護の考え方を職員に周知を図っている。
<p>(評価コメント)</p> <p>サービス規定をはじめとする各種規定や各種マニュアルはファイル共有サービスでいつでも閲覧可能になっています。また、毎年全職員に対してプライバシーマークの教育テストを実施し、個人情報保護などの認識を高めています。その他に運営上遵守すべき法令は本社から適宜指導するほか、安全面や保育の内容に関して法人として守るべき内容などを定め、周知・教育をしています。</p>		
8	人事方針を策定し、人事を計画的・組織的に進め、職員評価が客観的な基準に基づいて行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人材確保・定着・育成の方針と計画を立て実行している。 ■ 職務の権限規定等を作成し、職員の役割と権限を明確にしている。 ■ 評価基準や評価方法を職員に明示し、評価の客観性や透明性の確保が図られている。 ■ 評価の結果について、職員に対して説明責任を果たしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>配置基準と目標配置数を設定して積極的な採用活動をおこなっています。法人としてキャリアパスを定め、園ではリーダーなど分掌を決め、責任と役割を明確にしています。年2回の自己評価チェックや年度末に向けての意向調査で施設長が全職員を面談するほか、必要に応じて本部職員が面談をおこなっています。</p>		
9	事業所の就業関係の改善課題について、職員(委託業者を含む)などの現場の意見を幹部職員が把握し改善している。また、福利厚生に積極的に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 担当者や担当部署等を設置し職員の有給休暇の消化率や時間外労働のデータを、定期的にチェックしている。 ■ 把握した問題点に対して、人材や人員体制に関する具体的な改善計画を立て実行している。 ■ 職員が相談しやすいような組織内の工夫をしている。 ■ 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生事業を実施している。 ■ 育児休暇やリフレッシュ休暇等の取得、ワーク・ライフ・バランスに配慮した取り組みを行っている。
<p>(評価コメント)</p> <p>勤怠管理システムを利用して有休取得状況を確認しています。定期的に本部から有休消化状況を共有し、計画的な有給取得に努めています。また福利厚生で年間5日間連続の夏季休暇を付与し、取得期間の調整も計画的におこなっています。人材配置等に調整が必要な場合には、本社に集約された情報により、人員の補充や近隣園からの手助けができるような体制にしています。</p>		
10	職員の教育・研修に関する基本方針が明示され、研修計画を立て人材育成に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中長期の人材育成計画がある。 ■ 職種別、役割別に能力基準を明示している。 ■ 研修計画を立て実施し、必要に応じて見直している。 ■ 個別育成計画・目標を明確にしている。 ■ OJTの仕組みを明確にしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>法人としてキャリアパスを作成し、各職員の能力や意思を確認したうえで中核を担う人材などを施設長と本部職員が面談して選任しています。年間の研修計画を策定し、毎月の園内研修と年1回の園外研修に各職員が参加できるように計画を立て、新しい知識や技能の習得の後押しを図っています。研修内容は園での共有のみでなく、研修レポートにて他園へも共有しています。</p>		
11	全職員を対象とした権利擁護に関する研修を行い、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 子どもの尊重や基本的な人権への配慮について勉強会・研修を実施している。 ■ 日常の援助では、個人の意思を尊重している。 ■ 職員の言動、放任、虐待、無視など行われることの無いように、職員が相互に振り返り組織的に対策を立て対応している。 ■ 虐待被害にあった子どもがいる場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている。
<p>(評価コメント)</p> <p>園内研修で毎年1回は必ず子どもの人権に関する研修を取り入れています。法人として虐待や「不適切な保育」について研究し園でとるべきスタンスについてまとめ、姉妹園のグループ施設長会議にて研修をおこなっています。また、万が一発見した際には、本社・行政・関係機関と速やかに連携をとり、解決に向けて積極的に取り組む体制を整えています。</p>		
12	個人情報保護に関する規定を公表し徹底を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 個人情報の保護に関する方針をホームページ、パンフレットに掲載し、また事業所等内に掲示し実行している。 ■ 個人情報の利用目的を明示している。 ■ 利用者等の求めに応じて、サービス提供記録を開示することを明示している。 ■ 職員(実習生、ボランティア含む)に研修等により周知徹底している。
<p>(評価コメント)</p> <p>個人情報保護に関する規定を策定しファイル共有サービスでいつでも閲覧可能になっています。Pマークを取得・更新して、個人情報保護方針をホームページ等に記載し、保護者には入園時に説明するとともに、個人情報取り扱いの同意書を取得しています。また、職員全員に対して、年1回のPマークの教育テストや研修を実施しています。</p>		
13	利用者満足度の向上を意図した仕組みを整備し、取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 利用者満足度を把握し改善する仕組みがある。 ■ 把握した問題点の改善策を立て迅速に実行している。 ■ 利用者・家族が要望・苦情が言いやすい雰囲気を作っている。 ■ 利用者等又はその家族との相談の場所及び相談対応日の記録がある。
<p>(評価コメント)</p> <p>「5分間対応」として毎日降園時に5分間保護者と職員が対話をする時間を設けており、子どもたちの様子を伝えると同時に信頼関係の構築に努めています。年度末には保護者アンケートを実施し、問題点の抽出と改善案の検討・実施をおこない、保護者会でフィードバックをしています。また、苦情解決窓口や第三者委員を設置し、玄関掲示や入園案内で周知しています。</p>		

14	苦情又は意見を受け付ける仕組みがある。	<ul style="list-style-type: none"> ■保護者に交付する文書に、相談、苦情等対応窓口及び担当者が明記され説明し周知徹底を図っている。 ■相談、苦情等対応に関するマニュアル等がある。 ■相談、苦情等対応に関する記録があり、問題点の改善を組織的に実行している。 ■保護者に対して苦情解決内容を説明し納得を得ている。
<p>(評価コメント)</p> <p>降園時の「5分間対応」で日頃から保護者と対話する機会を設けているので、小さなお悩み事や相談など、クレームになる前に対応ができていることもあります。苦情解決窓口や第三者委員を設置し、入園案内に明記している他、玄関掲示で周知しています。さらに法人として苦情対応マニュアルを整備しています。</p>		
15	教育及び保育内容について、自己評価を行い課題発見し改善に努め、教育及び保育の質の向上を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> ■教育及び保育の質について自己評価を定期的に行う体制を整備し実施している。 ■教育及び保育の質向上計画を立て実行し、PDCAサイクルを継続して実施し恒常的な取り組みとして機能している。 ■自己評価や第三者評価の結果を公表し、保護者や地域に対して社会的責任を果たしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>毎月のオンライン施設長会議や隔月のグループ施設長会議で保育所保育指針などの研修や各園の取り組みを共有して、施設長が園に周知することで保育内容などの向上に努めています。年2回の自己評価チェックを実施し、振り返りや他己評価により、課題を設定しています。第三者評価や年度末保護者アンケート、園の自己評価を実施し、結果を公表しています。</p>		
16	提供する教育及び保育の標準的実施方法のマニュアル等を作成し、また日常の改善を踏まえてマニュアルの見直しを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ■業務の基本や手順が明確になっている。 ■分からないときや新人育成など必要に応じてマニュアルを活用している。 ■マニュアル見直しを定期的に行っている。 ■マニュアル作成は職員の参画のもとに行われている。
<p>(評価コメント)</p> <p>業務マニュアル・看護マニュアル・栄養士マニュアルを作成し、定期的に変更しています。各種マニュアルはファイル共有サービスにて共有し、必要な対応をいつでも誰でも確認できるようにしています。保育内容の睡眠・食事・衣服の着脱に関してどの月齢にはどのようなかわりをしていくべきかについて、リーダー施設長が主導して法人としてのガイドラインを策定しています。</p>		
17	保育所等利用に関する問合せや見学に対応している。	<ul style="list-style-type: none"> ■問合せ及び見学に対応できることについて、パンフレット、ホームページ等に明記している。 ■問合せ又は見学に対応し、利用者のニーズに応じた説明をしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>園ホームページに入園案内を掲載して見学などの問い合わせフォームを設けるほか、電話で直接受け付ける旨を案内しています。園見学は希望者の意向に沿って随時受け付け、施設長・主任保育士が対応しています。見学時は入園案内を配布し、保育の理念・方針と千葉稲毛雲母園のスローガンをはじめ、子どもの「やってみよう、やってみよう、やってみよう」の気持ちを大切にしていることを伝えています。</p>		
18	教育及び保育の開始に当たり、教育及び保育方針や内容等を利用者に説明し、同意を得ている。	<ul style="list-style-type: none"> ■教育及び保育の開始にあたり、理念に基づく教育及び保育方針や内容及び基本的ルール等を説明している。 ■説明や資料は保護者に分かりやすいように工夫している。 ■説明内容について、保護者の同意を得るようにしている。 ■教育及び保育の内容に関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している。
<p>(評価コメント)</p> <p>入園案内には雲母保育園の理念とともに園特有スローガンのほか、園の重要事項説明や利用案内を記載しています。入園時に個別面談を実施し、利用内容や園の基本的なルールの説明を丁寧におこない、保護者の意向を確認の上、重要事項説明書や画像使用についての同意書を交わしています。面談で得た情報や本社に確認が必要な質問内容は記録をし、保育園内・本社へ報告・共有をしています。</p>		
19	保育所等の理念や教育及び保育方針・目標に基づき全体的な計画が適切に編成されている。	<ul style="list-style-type: none"> ■全体的な計画は児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて作成している。 ■全体的な計画は、教育及び保育の理念、方針、目標及び発達過程などが組み込まれて作成されている。 ■子どもの背景にある家庭や地域の実態を考慮して作成されている。 ■施設長の責任の下に全職員が参画し、共通理解に立って、協力体制の下に作成されている。
<p>(評価コメント)</p> <p>今年度(2023年度)より雲母保育園全体として保育目標・保育方針とに関する方針の見直しを図り、園として全体的な計画・食育計画の見直しをおこなっています。全体的な計画は児童憲章・児童の権利に関する条約・児童福祉法の意図を汲み、保育所保育指針に則り養護・教育(5領域)を分けて定めています。発達の過程を踏まえた内容をベースに、施設長が中心となって職員間で話し合いながら意見を反映し、園の状況や地域に合わせたものを作成しています。</p>		

20	<p>全体的な計画に基づき具体的な指導計画が適切に設定され、実践を振り返り改善に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■全体的な計画に基づき、子どもの生活や発達を見通した長期的な指導計画と短期的な指導計画が作成されている。 ■乳児、1歳以上3歳未満児、障害児等特別配慮が必要な子どもに対しては、個別計画が作成されている。 ■発達過程を見通して、生活の連続性、季節の変化を考慮し、子どもの実態に即した具体的なねらいや内容が位置づけられている。 ■ねらいを達成するための適切な環境が構成されている。 ■指導計画の実践を振り返り改善に努めている。
<p>(評価コメント)</p> <p>全体的な計画をもとに年案を作成し、そこから子どもたちの姿をとらえて月案・週案を作成しています。計画を立案するにあたっては、子ども一人ひとりを見ながらねらいを立てることを大切にしています。また、楽しむのは絵本や玩具、散歩など対象物や場所ではなく、その対象物や場所でどのように関わって楽しむのか具体的な内容の計画となるようにしています。3歳未満児及び特別に配慮が必要な子どもについては、個別計画・記録を子どもに寄り添う視点をもって作成しています。日々の保育は指導計画にもとづき臨機応変に展開し、子どもの姿を捉えながら振り返りと記録をおこなっています。全体的な計画は掲示をして保護者にも知らせ、保護者面談や5分間対応を通じて、保護者の意向を確認しながら指導計画に反映しています。</p>		
21	<p>子どもが主体的に活動できる環境が整備されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもが安心感と信頼感をもって活動できるよう、子どもの主体としての思いや願いを受け止めている。 ■子どもの発達段階に即した玩具や遊具などが用意されている。 ■子どもが自由に素材や用具などを自分で取り出して遊べるように工夫されている。 ■好きな遊びができる場所が用意されている。 ■子どもが自由に遊べる時間が確保されている。 ■教育及び保育者は、子どもが主体性を発揮できるような働きかけをしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>保育室内は安全を第一に、また子どもの第二の生活の場であることを念頭に整備しています。子どもが遊びたいものを手に取って遊べるように玩具を配置しているほか、パーテーションやジョイントマットなどを活用して緩やかなコーナーや空間を整備し、ひとつひとつのあそびをじっくり楽しめるようにしています。ペットボトルのポウリング、ままごとあそびの食材、牛乳パックの電車など、子どもの好きなあそびや興味あるものを手作りして提供しています。また、0歳児の保育室にも手作りの大型積木を設置し、運動あそびがいつでもできるように工夫しています。幼児クラスには「すうじのひょう」や「あいうえおのひょう」を子どもの目の高さに掲示し、子どもが遊びながら興味を持てるようにしています。</p>		
22	<p>身近な自然や地域社会と関われるような取組みがなされている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもが自然物や動植物に接する機会を作り、教育及び保育に活用している。 ■散歩や行事などで地域の人達に接する機会をつくっている。 ■地域の公共機関を利用するなど、社会体験が得られる機会をつくっている。 ■季節や時期、子どもの興味を考慮して、生活に変化や潤いを与える工夫を日常教育及び保育の中に取り入れている。
<p>(評価コメント)</p> <p>天気の良い日には、広場のある近くの神社に行って思いきり体を動かしたり、近隣の公園などへ散歩に出かけ、さまざまな遊具で楽しんだりしています。また、玄関先に掲示してある散歩マップには、遊びに行く公園だけでなく、学校や病院・駅や商店なども記載して、自分たちの住んでいる街を探検するような散歩が楽しめるようにしています。ハロウィンには仮装をして近隣の高齢者施設や商店街、駅などに立ち寄って地域の人と関わりを持ったり、戸外活動として消防署見学に出向き、消防車に乗せてもらったり火事や避難の話の聞いたりしています。年明けには神社に初詣に行き、一年の無事を祈願しています。</p>		
23	<p>遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■子ども同士の関係をより良くするような適切な言葉かけをしている。 ■けんかやトラブルが発生した場合、危険のないように注意しながら、子供達同士で解決するように援助している。 ■順番を守るなど、社会的ルールを身につけていくように配慮している。 ■子どもが役割を果せるような取組みが行われている。 ■子どもが自発性を発揮し、友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■異年齢の子どもの交流が行われている。
<p>(評価コメント)</p> <p>発達の過程で生じる友だちとのぶつかり合いでは、必ず双方の子どもの話に耳を傾け、一方的な対応にならないような声かけをしています。感情的になっている場合や年齢に合わせて、互いの思いを受け止めて保育者が気持ちを代弁することで、少しずつ気持ちの伝え合いができるようになっていきます。戸外活動で交通ルールや遊具の使い方に触れたり、ルールのある遊びを取り入れたりし、生活やあそびには「きまり」があること、それを守ることで身を守ったり友だちと楽しく遊べることなどを伝えています。異年齢との交流においては、合同保育となる早番・遅番で、さまざまな年齢の友だちとの関わりを楽しんでいます。</p>		

24	特別な配慮を必要とする子どもの教育及び保育	<ul style="list-style-type: none"> ■子ども同士の関わりに対して配慮している。 ■個別の指導計画に基づき、きめ細かい配慮と対応を行い記録している。 ■個別の指導計画に基づき、保育所等全体で、定期的に話し合う機会を設けている。 ■障害児教育及び保育に携わる者は、障害児教育及び保育に関する研修を受けている。 ■必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■保護者に適切な情報を伝えるための取組みを行っている。
<p>(評価コメント)</p> <p>特別な配慮が必要な子どもは本人の発達やペースに合わせた手助けや関わりをして、本人の意志や気持ちに寄り添いながら、ほかの子どもと同じ活動を無理なく楽しめるようにしています。子どものケースに応じて関係機関と連携を取り、保護者の心情や理解に応じて工夫しながら子どもの様子を伝え、その子なりの「育ち」を共有しています。</p>		
25	在園時間の異なる子どもに対して配慮がなされている。	<ul style="list-style-type: none"> ■引き継ぎは書面で行われ、必要に応じて保護者に説明されている。 ■担当職員の研修が行われている。 ■子どもが安心・安定して過ごせる適切な環境が整備されている。 ■年齢の異なる子どもが一緒に過ごすことに配慮している。
<p>(評価コメント)</p> <p>早番・遅番の時間帯は合同保育をおこない、異年齢での関わりを楽しむ時間となっています。年齢の高い子と低い子が一緒にいる保育室では、職員だけがまとまらないように声を掛け合い、全体が見渡せるような立ち位置を考えて安全が図られるようにしています。また、幼児向けの絵本を常備し、乳児の部屋でも年齢の高い子が楽しめるように配慮しています。職員全員で全ての子どもを見ることを方針としており、子どもの日中の様子などは昼礼や申し送りノートで情報共有し、降園まで細やかな保育をしていくように心がけています。</p>		
26	家庭及び関係機関との連携が十分図られている。	<ul style="list-style-type: none"> ■一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、子どもの発達や育児などについて、個別面談、教育及び保育参観、参加、懇談会などの機会を定期的に設け、記録されている。 ■保護者からの相談に応じる体制を整え、相談内容が必要に応じて記録され上司に報告されている。 ■就学に向けて、保育所等の子どもと小学校の児童や職員同士の交流、情報共有や相互理解など小学校との積極的な連携を図るとともに、子どもの育ちを支えるため、保護者の了解のもと、認定こども園園児指導要録及び保育所児童保育要録などが保育所等から小学校へ送付している。
<p>(評価コメント)</p> <p>降園時にどの保護者にも「5分間対応」として保育士・栄養士がその日の子どもの様子を5分の時間を有効に使うようにしています。担任を問わずどの職員も保護者対応をおこない、その日の出来事だけでなく、その子その子のエピソードや成長なども交えて話をしながら保護者との信頼関係も築いています。5分間対応で話しきれない内容やプライバシーにかかわる話がある場合は、個別に面談室に案内をしてゆっくり話を聞く体制を整えています。年2回実施している個人面談では、子どもの育ちや園生活の様子について伝えるとともに、保護者からの相談にも柔軟に応じています。就学に向けては保育要録の作成をして小学校に提出をするほか、保護者へはクラスだよりや掲示などで、小学校に関する情報の提供をおこなっています。</p>		
27	子どもの健康状態、発育、発達状態が適切に把握し、健康増進に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもの健康に関する保健計画を作成し、心身の健康状態や疾病等について把握・記録され、嘱託医等により定期的に健康診断を行っている。 ■保護者からの情報とともに、登所時及び教育・保育中を通じて子どもの健康状態を観察し、記録している。 ■職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し必要な取組みを行い、保護者に対して必要な情報を提供している。 ■子どもの心身の状態を観察し、不適切な養育の兆候や、虐待が疑われる場合には、所長に報告し継続観察を行い記録している。
<p>(評価コメント)</p> <p>全園児の身体測定を毎月、嘱託医による健康診断を0歳児は毎月、1歳以上は年に2回、歯科医による健診を年1回実施しており、都度保護者へ結果を知らせています。登降園時だけでなく、日中も着替えやお昼寝など活動の節目ごとに体調に変わりがないか、健康観察をおこなっています。毎月の園だより保健コーナーにて季節の感染症・生活リズム・家庭でのケアなど保健に関する注意事項を伝えるほか、感染症の発生時流行時には玄関掲示などで保護者に情報提供と注意喚起をおこなっています。乳幼児突然死症候群(SIDS)防止は、子どもの入眠中の呼吸や顔色などのチェックと記録、保護者への注意喚起をおこなっています。緊急時の備えとして、職員の上級救命講習の受講を推奨するとともに、健康管理に関する研修動画を作成して園内研修に活用するほか、姉妹園の看護師が保育士に巡回指導し、保育士が手洗いなどの保健指導をおこなっています。健康な体づくりとして、戸外あそびのほかに、全体で体操をして、広い廊下を活用してサーキットあそびをするなど、雨の日も必ず体を動かすようにしています。</p>		

28	感染症、疾病等の対応は適切に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ■教育及び保育中に体調不良や傷害が発生した場合には、その子どもの状態等に応じて、保護者に連絡するとともに、適宜、嘱託医や子どものかかりつけ医等と相談し、適切な処置を行っている。 ■感染症やその他の疾病の発生予防に努め、その発生や疑いがある場合には、必要に応じて嘱託医、市町村、保健所等に連絡し、その指示に従うとともに、保護者や全職員に連絡し、協力を求めている。 ■子どもの感染・疾病等の事態に備え、医務室等の環境を整え、救急用の薬品、材料等を常備し、適切な管理の下に全職員が対応できるようにしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>登園時に保護者に子どもの体調についての確認をしながら視診をおこない、登園時からの変化に気づけるように努めています。保育中に体調の変調を見つけた場合は、より注意して見守るとともに必要に応じて保護者へ連絡し、感染症の疑いがある場合は受診を依頼しています。怪我については首から上の怪我は原則受診としており、受診案件が発生した場合には、保護者への連絡と共に本社へも報告をする体制となっています。また、感染症の複数発生や重大事故の発生は自治体の定めに応じて保健所市役所への報告をしています。そのほか、看護マニュアルや救急救命など保健に関する知識啓もう動画を整備し、子どもの健康・安全に向けて職員の知識技能の向上に努めています。</p>		
29	食育の推進に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ■食育の計画を作成し、教育及び保育の計画に位置付けるとともに、その評価及び改善に努めている。 ■子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や調理する人への感謝の気持ちが育つように、子どもと調理員との関わりなどに配慮している。 ■体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもなど、一人一人の子どもの心身の状態等に応じ、嘱託医、かかりつけ医等の指示や協力の下に適切に対応している。 ■食物アレルギー児に対して誤食防止や障害のある子どもの誤飲防止など細かい注意が行われている。 ■残さず食べることや、偏食を直そうと強制したりしないで、落ち着いて食事を楽しめるように工夫している。
<p>(評価コメント)</p> <p>管理栄養士・栄養士を園専属で複数名配置し、食育計画のもと、給食・栽培・クッキングなど、さまざまな食育活動に取り組んでいます。毎月日々異なる内容の献立を立案し、旬の食材や行事食を取り入れるなど、子どもたちが給食を楽しみにできるように工夫を重ねています。日々管理栄養士らが食材を直接買い出しに行き、自分たちの目で見て選んで購入しています。ピーマン・なす・キュウリ・オクラ・小松菜など、いろいろな野菜の栽培にも取り組み、収穫後は給食に提供したり野菜スタンプにして制作を楽しんだりしています。また、郷土料理や行事食の由来や意味を子どもたちに伝え、さまざまな料理に興味を持てるようにしています。食物アレルギーがある場合は保護者と面談をおこない、医師の指示のもと献立を決定し、定められた確認方法・配膳手順で誤食の無いように努めるほか、離乳食は家庭で喫食した食材を個々の状況に合わせた提供し、宗教上の個別対応など、家庭と連携をとって安全な食事の提供をしています。</p>		
30	環境及び衛生管理は適切に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ■施設の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備及び用具等の衛生管理に努めている。 ■子ども及び職員が、手洗い等により清潔を保つようにするとともに、施設内外の保健的環境の維持及び向上に努めている。 ■室内外の整理、整頓がされ、子どもが快適に過ごせる環境が整っている。
<p>(評価コメント)</p> <p>保育園の環境を適切に保つとともに整理整頓を心がけ、子どもたちが快適に過ごす環境を整えています。子どもの生活の場ということ念頭に置いて、園舎内やトイレの清掃手順、嘔吐の処理や消毒の方法などを必要な場所に設置し、職員全体で一貫した環境整備や清掃をおこなえるようにしています。また、各手洗い場には子どもに分かりやすい手洗いのイラストを貼り、正しい手洗いの習慣が楽しみながら身につくように取り組んでいます。</p>		
31	事故発生時及び事故防止対策は適切に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ■事故発生時の対応マニュアルを整備し職員に徹底している。 ■事故発生原因を分析し事故防止対策を実施している。 ■設備や遊具等保育所等内外の安全点検に努め、安全対策のために職員の共通理解や体制づくりを図っている。 ■危険箇所の点検を実施するとともに、外部からの不審者等の対策が図られている。
<p>(評価コメント)</p> <p>今年度(2023年度)より安全計画を作成しています。事故発生時の対応はマニュアル内に記載し、本社と連携しつつ対応しています。ヒヤリハットの抽出や事故簿作成して職員間で共有し、原因を分析することによって各職員の危機管理意識を高め、事故発生の防止や再発防止につなげています。また会社として安全対策を見直し、監視員の設置や散歩時の点呼の方法などを新たに定め、職員は園児の人数を記載した札を首に下げ、誰でもどこにいても引率している園児数が分かるようにしています。またお散歩マップを作成し、園周辺の環境や遊具・危険箇所についても随時状況を把握しています。公園では遊具の破損などを確認してから遊ぶようにし、子どもが安全に遊べるように努めています。また、消火器のある場所には分かりやすく大人の目の高さに表示をし、消火器が倒れたり子どもが触ったりしないように、段ボールで囲いを作るなどの工夫をしています。</p>		
32	地震・津波・火災等非常災害発生時の対策は適切に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ■地震・津波・火災等非常災害発生に備えて、役割分担や対応等マニュアルを整備し周知している。 ■定期的に避難訓練を実施している。 ■避難訓練は消防署や近隣住民、家庭との連携のもとに実施している。 ■立地条件から災害の影響を把握し、建物・設備類の必要な対策を講じている。 ■利用者及び職員の安否確認方法が決められ、全職員に周知されている。

(評価コメント)

有事の際の動き方も定めた業務マニュアルを整備しているほか、月1回の避難訓練消火訓練のほか、水害訓練や防犯(不審者)訓練を実施しています。安全計画と共に年間の避難訓練計画においては、さまざまな時間帯・場面などを設定し、職員は状況に応じて臨機応変な対応ができるようにし、子どもにはさまざまな避難行動が身につくようにしています。そのほか、年に1回は保護者を含めた引取訓練を実施して災害用伝言ダイヤルを使う訓練をするなど、災害時における家庭との連携について周知・確認をしています。事務所には通報手順や緊急時対応マニュアルのフローチャート、緊急時の役割割分担表を掲示し、有事の際に迅速且つ適切な対応ができるようにしています。

33	地域ニーズを把握し、地域における子育て支援をしている。	<ul style="list-style-type: none">■ 地域の子育てニーズを把握している。■ 子育て家庭への保育所等機能を開放(施設及び設備の開放、体験保育等)し交流の場を提供し促進している。■ 子育て等に関する相談・助言や援助を実施している。■ 地域の子育て支援に関する情報を提供している。■ 子どもと地域の人々との交流を広げるための働きかけを行っている。
----	-----------------------------	---

(評価コメント)

園見学時に子育て世代の育児相談を受けているほか、地域の小学校や地域住民とも交流を深めています。また、新型コロナウイルス感染症の影響で中断していたイベントなども、2023年度には再開され、夏には土曜日に開催される町内会のお祭りに参加して、地域の人々や同じ園の保護者とゲームやクイズを楽しんでいます。年度末には年長児対象の小学校との交流活動もおこなひ、一年生から校内の案内やクイズを通じて楽しませてもらっています。さらに、栄養士・担任と一緒におこなう買い物体験では、野菜や魚の実際の姿を見る貴重な経験となっています。